

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	高根沢町立北高根沢中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	/	12	26
生徒数	113	123	128	/	364	

研究の概要

1. 研究主題

意欲的・主体的に学ぶ生徒の育成を目指して
- 基礎的・基本的な学習内容の定着と指導体制の工夫・改善 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・数学
生徒の学力に差がでやすい教科であり、3年前から1,2年生の数学科においてティーム・ティーチングを実施してきた経緯から、取り組みやすいと考えたため。
全学年・朝の学習, 家庭学習
基礎学力の定着と自主的な学習が本研究には必要であると考えたため。

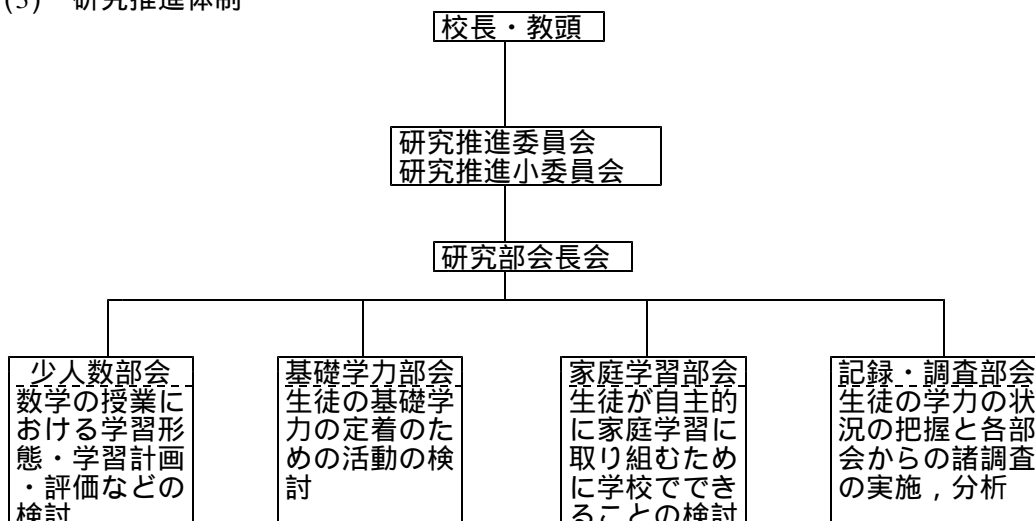
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 数学科における指導体制の工夫と基礎学力の定着</p> <p>研究の仮説 習熟度による少人数学級編成で個に応じた指導を実施すれば、確かな学力が身に付くであろう。また、基礎的な学力を付けることで授業が理解できるようになり、生徒が意欲的に授業に取り組むようになるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1 主な内容 数学科における習熟度別少人数学級の実施 漢字進級テスト 百ます計算 家庭学習の習慣化</p> <p>2 研究部会による活動 少人数部会 習熟度別少人数学級編成 + ティーム・ティーチングの継続 コース別の指導に適した指導方法や教材の開発 学級編成時, 変更時の配慮 評価の公平性・信頼性の向上 指導計画については従来どおりであるが進度を調整しながら実施</p> <p>基礎学力部会</p> <p>1 学期 数学科として授業のはじめに百ます計算, 毎日宿題で百ます計算 漢字練習(テスト)・・・従来の小学5年生からの出題を3年生からに(BT(朝の自習)の時間)</p> <p>2 学期(読み書き計算の定着を重点に) 朝のBTの時間・・・2週間 百ます計算 + 読書 2週間 漢字練習(テスト)</p> <p>数学の単元別進級テスト(3学期)</p> <p>家庭学習部会 個々の生徒に応じたより効果的な家庭学習のあり方についての指導をするための方法の検討</p>
--------	---

	<p>調査の結果をふまえて家庭や生徒への通知（3月～4月） 宿題についての検討・・・家庭学習の習慣化に向けて 記録・調査部会 比較のため漢字、算数の確認テストをする。 教育課程実施状況調査を1、2年生にもやってみる。 CRTで1年 2年 3年の変化を比較をする。 来年度の4月に全学年一斉に漢字と数学の確認テストをやる。</p> <p>3 その他 講演会 平成15年6月13日 講師 宇都宮大学教授 保護者向け「確かな学力を身につけるための家庭教育のあり方」 教員向け「確かな学力を身につけるための指導のあり方」 他教科の授業の見学 定期テスト前の放課後の利用</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 数学科における指導体制の工夫と家庭学習の習慣化 研究の見通し 単元や指導内容によって少人数学級編成に習熟度や等質の変化をもたせながら個に応じた指導を展開すれば、確かな学力が身に着くであろう。また、家庭学習の習慣化が授業の理解を助け、生徒が意欲的に授業に取り組むようになるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 研究部会による検討 少人数部会 ・習熟度別少人数学級編成＋チーム・ティーチングの継続 習熟度別にする単元と等質少数にする単元に分けて実行する。 ・コース別の指導に適した指導方法や教材の開発・・・継続 ・学級編成時、変更時の配慮 単元により習熟度別と等質に少人数学級編成をすることで移動しやすくなるであろう。 ・評価の公平性・信頼性の向上・・・継続 ・指導計画については従来どおりであるが、進度を調整しながら実施 目次の作成 基礎学力部会 ・百ます計算は小学校でも実施しているので、4月に実施し状況によっては内容を変更する。 ・漢字テストは小学校3年生からの内容を継続 ・数学の進級テストは現在実施している生徒の状況を判断して検討 家庭学習部会 ・生徒が自主的に家庭学習に取り組めるにする学校での指導の検討 授業の時間を利用して模擬家庭学習を実施する方向で検討</p> <p>記録調査 ・諸調査の継続、分析</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

数学の授業において習熟度別少人数指導にチームティーチングを取り入れ、個に応じた指導を心がけたことにより、授業に対する意欲や集中力の持続に効果があったと思われる。
漢字テストの内容の変更により、合格できる機会が増え、漢字の学力の向上や意欲の持続につながった。
百ます計算により、計算力の向上に役立ち、また集中力が増したように感じる。比較のための調査を実施しているが、昨年度と本年度では生徒が違うため、単純比較ができないのではっきりとは断言できないが、学習に対する意識や授業の理解度に効果があったと思われる。

2. 今後の課題

数学の授業における習熟度別少人数学級編成については、今年度は年間を通して実施していたが、来年度は単元によって習熟度別少人数と等質少人数を使い分ける方向で検討している。
家庭学習への取り組みについては、まだ効果的な活動が実施されていないので、来年度への検討事項である。
研究成果を把握するための調査方法と分析については検討する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

小学校の復習テスト(4月)
CRT(2月~3月)
教育課程実施状況調査(10月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

塩谷地区学力向上推進協議会(平成16年2月23日 塩谷庁舎)
公開研究発表会(平成16年度 期日未定 本校)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4~6学級
 7~9学級 10~12学級
 13~15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無